

コンクリート 3D プリンターの表面仕上げを検証

ー バリアレス縁石への適用可能性を探る ー



2026.4.4

前回の形成試験では、コンクリート 3D プリンター特有の積層による表面の凹凸が課題となりました。

そこで、形成中にコテで表面をならす仕上げ方法を検証。その結果、3D プリンターによる形成でも、平滑な表面を再現できることを確認しました。

また、通常の型枠を使用して製作した特注品と比較したところ、外観上、大きな差のない仕上がりとなりました。3D プリンターは、型枠製作が難しい特殊形状や少量生産への対応など、従来のプレキャストコンクリートとは異なる可能性を持っています。

形成した試験体は当社で屋外暴露試験を行い、実際の環境下での変化を継続して確認することとしました。



通常のバリアレス縁石の擦り付け部。現場ごとに特注の型枠を発注して製造する“一点物”である



Polyuse Zero による形成物（手前：表面ならし有り、後方：ならし無し）ならし有りの外観は通常品と比べても遜色ない